いわての NPO・ボランティア活動情報誌
2024 vol.2

ぱいん PIN

Paper Iwate NPO

NPOのはじめの一歩！！「活躍の場をつくる」

- 連携事例集「NPO× 行政」「NPO× 企業」
- ユース世代に聴いてみよう
- 岩手県からのお知らせ
- 岩手県社会福祉協議会／ボランティア・市民活動センターからのお知らせ
- 活動から生まれたもの紹介「たかたの教科書」

ＮＰＯ法人陸前高田まちづくり協働センター観察会

特集

はじめの一歩！「活躍の場をつくる」

Start!

市民と一緒に考え仲間を増やし楽しみながら、市民の活躍の場、関われる機会を作る NPO の取組をご紹介。

NPO法人 陸前高田 まちづくり協働センター

市民と一緒にイベントを開催

9月7日（土）、陸前高田市でNPO法人陸前高田まちづくり協働センター主催、陸前高田市立博物館学芸員の浅川さんが講師を務める親子向けイベント「身近な昆虫を探しに行こう！」が開催されました。

当日のプログラム

- 博物館で虫の標本見学と秋に見られる虫の説明
- 川原川公園で虫の観察会
- 採取した昆虫の紹介と解説

早く虫を捕まえたい子どもたちは博物館内で説明を聞く間もウズウズ。観察会では時間いっぱいチョウやトンボなどを追いかけていました。子ども同士や親子で協力したり、捕まえた虫を図鑑と見比べたり、様々な会話と表情が見られました。小学校3年生の息子と参加したお父さんは「息子は勢い余って川に入ってしまいそうなほどで、初めてカワトンボを見たと喜んでいた」と、話してくれました。

みんなが主役

このイベントは、「みんなでつくった たかたの教科書」の関連企画として開催されたものです。地域づくり支援などを行う陸前高田まちづくり協働センターが2023年に発行したこの教科書は、「自分たちの暮らす地域に目を向ける機会をつくる」「新しい出会いやつながりをつくる」「地域を元気にしていく仲間を増やす」ことなどを目的に、地域の方々と一緒に実施してきたプロジェクトです。参加メンバーが興味のあることや伝えたい地域のことについてアイディアを出して話し合いながら、取材・調査を行い、冊子化にあたっては教科になぞらえて分類し、原稿執筆や挿絵までみんなで取り組みました。

さらに、教科書の原稿を担当した方や地域の方は、このイベントでは講師も務めます。今回のイベント講師の浅川さんは、理科ページの「たかたは昆虫パラダイス」の執筆も担当していました。参加者も講師もみんなが主役です。

2023年度のイベント内容

- **第1弾** 社会 「地域を知ろう～今泉の歴史と文化～」
- **第2弾** 家庭科 「おいしいのごはん～みんなでけんちん汁を作ろう～」
- **第3弾** 理科 「岩手博物界の太陽：鳥羽源蔵先生ってどんなひと？」
- **第4弾** 探求 「つくってあそぼう！凧づくり教室」

2024年度のイベント内容

- **第1弾** 社会 「伝説『鮭のおおすけ』の考察」
- **第2弾** 理科 「身近な昆虫を探しに行こう！」
- **第3弾** 国語 「高田暮らし交流会～方言で遊ぼう！～」※他団体と共催
- **11月9日** トレイル 「みちのく潮風トレイルを歩いてみよう！」
- **12月14日** 家庭科 「おいしいのごはん～ゆべしをつくってみよう！～」

陸前高田市立博物館 学芸員 浅川崇典さん

文献だけでは伝わらないこともあるので、企画を通じて直に自然に触れて陸前高田を好きになり、子どもたちに陸前高田の自然や歴史文化に興味を持ってもらいたいです。たかたの教科書プロジェクトにもその思いで参加しました。

陸前高田まちづくり協働センター 理事長 三浦まり江さん

地域には、この地域出身者も移住者も含めて様々な知識・スキル・経験を持つ方々がたくさんいます。住民が主役となっていきいきと活躍する場をつくり、活躍できる地域になるように、みんなで一緒に楽しみながら進んでいきたいです。

取材の際、参加者だけでなく陸前高田まちづくり協働センタースタッフみなさんの笑顔が印象的でした。東日本大震災津波後から復興まちづくりに関わる中で、「もっと陸前高田を元気にしたい」「より良いまちにしていきたい」との声に触れ、住民の熱意を応援していきたいとのスタッフの思いを感じました。

イベントの様子

㊧2023年度「岩手博物界の太陽：鳥羽源蔵先生ってどんなひと？」
㊥2023年度「おらいのごはん～みんなでけんちん汁を作ろう～」
㊨2023年度「岩手博物界の太陽：鳥羽源蔵先生ってどんなひと？」

みんなでつくったたかたの教科書は、裏表紙「活動から生まれたもの紹介」にも掲載しています。

教科書作成時の取材の様子

NPO法人陸前高田まちづくり協働センター

「住民が主役となって活躍している地域をつくる」をモットーに、住民が信頼関係でつながり、楽しく生き生きと生活し、自己実現ができる陸前高田らしい地域づくりを進めるため、地域の困りごとの解決や、まちづくりへの思い実現に向けて一緒に考えるサポートを行っています。

岩手県陸前高田市高田町字荒町 104 番地 7
陸前高田市チャレンジショップ C-2
TEL：0192-47-4776
MAIL：rtkyodo@gmail.com

ホームページ↑

NPO活動交流センター こう使おう！

PIN 取材こぼれ話

NPO活動交流センターでは、いわてのNPO・ボランティア活動情報誌PIN（ぱいん）紙面では掲載できなかったお話や取材時のエピソードを、「取材こぼれ話」としてホームページに掲載しています。

今後は、過去に掲載した取組や連携事例のその後の紹介などへも広げていきたいと思います。進捗情報をぜひお寄せください。

掲載しきれなかった情報、写真

取材先のその後の話も！

NPO活動交流センター
TEL：019-606-1760
MAIL：n-katsu@aiina.jp

岩手県 NPO 活動交流センター サイト→

Case study

連携事例集

地域課題の解決や社会貢献のための様々な活動について、NPO 単独で行うのではなく、企業や行政と連携・協働することで新たな成果が生まれています。岩手県内のそんな事例をご紹介します。

事例1

官民一体で子育て家庭を見守る

NPO× 行政

NPO 法人 矢巾ゆりかご × 矢巾町こども家庭課

aiai ひろばの様子

NPO法人矢巾ゆりかごは、「aiai ひろば」[※1]を拠点に、町内に住む3歳未満の未就園児と家族を対象とした広場の開放や子育て講習会の開催など、子育て家庭の応援に取り組んでいます。利用者同士の交流や情報交換により、お母さんたちが子育てを楽しみ、孤立孤独防止となることも目指しています。広場から通路を挟んだすぐ隣には矢巾町こども家庭課があり、遊び場と子育てに関する手続・悩み相談機能が集約された場となっています。

「物理的にも心理的にも役場担当課と距離が近いことが特徴で、毎日の現場で協働ができています」と話すのは、矢巾ゆりかご代表の半澤久枝さんです。aiai ひろばスタッフは保育士と栄養士で構成され、利用者の悩み相談にも対応していますが、心配事は様々です。子どもの事だけでなく、家庭、生活環境、保育園選びなど多様な要素が絡むため、利用者との会話や相談で深い話が必要と感じたら、すぐに役場の保健師・助産師・制度担当者につなぎ、本人と専門家と一緒に対応を考えていきます。この距離間と官民一体の協力体制が強みとなっています。

矢巾ゆりかごでは、子育てにはいろいろな選択肢があることが重要と感じており、スタッフが健診に足を運ぶなど顔の見える関係づくりを丁寧に行い、町内の他の施設を含めた子どもが遊べる場所を紹介するなど外部とも関わる最初の一歩が進むよう努めています。

こども家庭課の村上純弥さんは、こうした様子も見て「柔軟さやフットワークの軽さがNPOの魅力で、アウトリーチな活動が課題を抱える世帯の発掘にもつながる」と感じているそうです。取材を通して、子どもたちも親たちもみんなが笑顔で過ごせることを大切にしたいとの両者の思いを感じました。

※1 aiai ひろば とは

矢巾町が保健福祉交流センター1階に設置する子育て家庭を応援するひろば。2021年度からNPO法人矢巾ゆりかごが運営業務を受託。絵本の読み聞かせを町内保育園・こども園で開催し、園の見学や活動に触れる機会提供など、絵本をテーマにした活動にも取り組んでいる。2022年度から矢巾町ファミリー・サポート・センター（子育てサポートを受けたい方としたい方がそれぞれ会員となり、地域で行う子育て援助活動）の窓口も担う。事業の担当課である矢巾町こども家庭課も同保健福祉交流センターに入っている。

Instagram

事例2

お互いを知り 専門性を活かす機会を

NPO× 企業

NPO 法人 Future Seeds × 株式会社ポーラ

洗顔教室の様子

NPO法人 Future Seeds は、1人で悩みを背負い込まず、みんなで支え合うことができる社会を目指して活動しています。滝沢市と八幡平市のフリースペースでの学習支援や不登校支援の他、産前産後ケアセミナーや食品・生活用品の無償提供等の子育て支援に取り組んでいます。

9月26日には、「たきざわスポラ」[※2]で株式会社ポーラと連携した特別プログラムとして洗顔教室を行い、小中学生12名が教室に参加しました。

ポーラスタッフから肌の構造を学んだ後、洗顔・スキンケア・日焼け止めの塗り方まで体験し、終始「楽しい」など声が上がり和気あいあいとした時間でした。印象的だったのは、「泡が気持ちいい」など参加した子どもから「求人募集はしていますか?」との質問が出たことです。美容に関心がありポーラの仕事に興味を持ったそうです。ポーラみたけ店オーナーの岩間直美さんは「常時スタッフ募集しています。働きながら専門性も磨くことができるので、もう少し大きくなったら情報収集してみてくださいね」と返事していました。

ポーラは2024年1月に岩手県と「包括連携協定」を締結したことをきっかけに、美容の力で地域に貢献したいと考えていました。今回、ポーラみたけ店のお客様がFuture Seedsを紹介したことが両者の出会いとなり教室が実現しました。終了後、子どもたちから「これからお店やCMを見たら今までより身近に感じると思う」との感想もあり、ポーラにとっても嬉しい反応でした。Future Seedsの砂子田（すなごだ）日加里さんも「洗顔をツールにみんな一緒に取り組めて良かった」と話していました。

NPOが持つ場と企業の専門性を掛け合わせた取組が相互理解にもつながっていくと感じました。

※2 たきざわスポラとは

NPO法人Future Seedsが滝沢市砂込の「馬っこパーク・いわて」内に、2023年7月に新設したフリースペース。毎週火・水・木曜日の9:00～15:00に開所しています。学年や年齢の壁がなく活動ができ、自然体験、社会体験、科学体験、調理体験等、実際に体験しながら学ぶことができる新しい居場所です。

スポラはギリシャ語で「種まき」という意味で、子どもたちの未来が実りに溢れ、たくさんの元気が訪れるようにとの願いが込められています。

HP

Interview

ユース世代に聴いてみよう

ユース世代の活動とインタビューをお届けします

学生活動団体 暁

暁は、2023年12月に県立宮古高等学校の生徒を中心に立ち上げました。現在のメンバーは宮古市内の中学生1名と高校生15名で、「学生の活動力を最大限に」を理念に地域のみなさんと一緒に地元を盛り上げようと活動しています。地域や企業のイベント運営、SNSでの発信に加えて防災にも力を入れています。地域での防災活動を行いながら、東日本大震災津波の被災地である宮古から、全国・世界へ防災意識を高めるための情報も発信しています。

代表 中村遥音（はると）さん

学生がボランティア活動に参加する機会はあっても継続的なものではないことが課題でした。地域貢献活動を持続的に行い、地域の発信もしていく学生団体として発足しました。「ありがとう。」この一言が何よりのやりがいです。

地域防災部 荒川純花（すみか）さん

中学3年生の時、学校の防災訓練で東日本大震災津波やハザードマップの大切さなどを全校生徒に話した経験から、もっと防災や災害を学び伝えていく必要があると考えていました。高校に入学後、暁を知り防災や地域貢献で色々な人の役に立ちたいと入団しました。人との関わりを大切に経験を積み、消防団入団への夢にも役立てたいです。

佐々木穂花（ほのか）さん

地域の役に立ちたいと思っていた時に友人に誘われて入団しました。これからも地域での活動を継続して、一緒に活動してくださった方々に「暁」を頼って良かったと思ってもらえたら嬉しいです。

活動報告や告知など、SNSで発信しています!

Instagram

災害時の被災者や復旧・復興活動を支える仕組み

1月1日に石川県能登地方を震源に発生した能登半島地震をはじめ、近年は、地震、台風や大雨による豪雨災害など、多くの自然災害が発生しています。
「被災された方のために何かをしたい！」と現地へ出向き、ボランティア活動に参加される方も多いと思いますが、被災地が遠方で、直接現地に出向いて支援するということが難しい場合、どのような支援方法が考えられるでしょうか。

義援金と支援金

今回は、被災された方への支援の方法の一つである、「義援金」と「支援金」についてご紹介します。

おおまかに区分すると、「義援金＝被災者に届けられるお金」、「支援金＝被災者を支援する方に届けられるお金」です。義援金が「直接的」、支援金は「間接的」な支援ともいえますが、どちらも被災された方の生活再建や復興に役立てられます。

現地へ行って活動する方法だけではなく、募金という方法も、被災地を支える重要なボランティア活動になります。

義援金と支援金の違い

	義援金 ¥	支援金 ¥
届け先	被災された方	被災された方を支援する方（団体）
使い道	直接的な生活再建	各団体等の支援活動による間接的な生活・地域再建
受付場所	日本赤十字社、共同募金会、自治体、マスコミ等	中央共同募金会、被災者・被災地支援団体（直接受付け）
活用方法	配分委員会等を通じて被災された方に公平に配分	寄付を受けた団体等の各自の判断と責任で活用※
税制上の優遇措置	有り	有り

※共同募金会が受け付ける支援金は審査の上、支援活動団体に配分

ご注意

○募集中の義援金は、岩手県共同募金会ホームページ（https://www.akaihane-iwate.or.jp/）で確認できます。

○義援金の受付は、岩手県共同募金会のほかに、各市町村共同募金委員会（社会福祉協議会）でも受付しています。お住まいの市町村社会福祉協議会にお問い合わせください。

＊詳しくは以下の各ホームページをご覧ください。

義援金について

中央共同募金会
「赤い羽根共同募金」

岩手県共同募金会
「赤い羽根共同募金」

災害ボランティア関係について

内閣府防災担当
「内閣府防災情報のページ」

全国社会福祉協議会 全国ボランティア市民活動振興センター
「被災地支援・災害ボランティア情報」

お問合せ
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
TEL:019-637-4483　FAX:019-637-7592

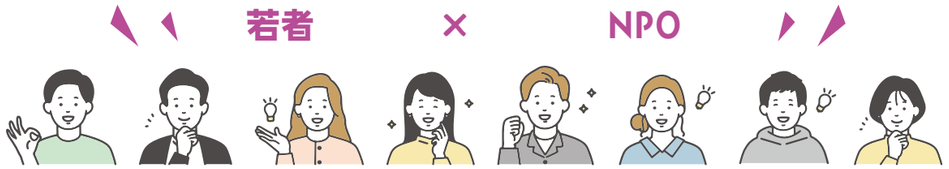
岩手県共同募金会
TEL:019-637-8889　FAX:019-637-9712

若者×ＮＰＯマッチング交流会を開催しました！

いわて若者カフェでは、7月13日（土）、21日（日）に行政職員や大学生等の若者を中心に、ＮＰＯに対する理解促進を図るとともにＮＰＯ活動等への参加機運の醸成を図ることを目的に、「若者×ＮＰＯマッチング交流会」を開催しました。

若者 ×NPO マッチング交流会とは

地域課題の解決に取り組む岩手県内のＮＰＯ・地域団体の担当者と若者が交流しながら、自分に合った関わり方を探す会です。



交流会の流れ

交流会は、最初にＮＰＯによる活動内容のプレゼンがあり、その後、各ブースに分かれてより活動内容を詳しく聞くためのＮＰＯと参加者の交流タイムがあり、最後にディスカッションが行われました。

ディスカッションでは、ＮＰＯが設定したテーマ（「挑戦してみたいこと」「若者が自然に集まる場所を作るには」など）に沿って活発に意見交換が行われ、たくさんのアイディアが生まれていました。

交流会後は、活動参加を希望する参加者とＮＰＯのマッチングが行われ、活動がスタートしています。

参加者からは、「ＮＰＯの皆さんが信念を持って活動していることが分かった。自分も地域のためにプラスになる活動をしていきたい」、NPOからは「若者の視点から様々な意見を聞くことができた」など、前向きな感想が多く寄せられました。

また、この交流会は令和７年１月～３月頃に２回目の開催を予定しています。日程の詳細等が決まりましたらＱＲコード先のホームページにてご案内いたします。

ＮＰＯの活動に興味のある方や、地域貢献やまちづくりに関心のある方のご参加をお待ちしております。

岩手県公式・いわて若者交流ポータルサイト
「Co.Nex.Us」お知らせページ

いわてのNPO・ボランティア活動情報誌 PIN ぱいん 2024 vol.2
令和6年11月8日発行　発行：NPO活動交流センター
〒020－0045　岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1いわて県民情報交流センター「アイーナ」6F
TEL019－606－1760　Fax 019－606－1765
PINZ（ぱいんず）は年3回、各2000部発行しています。

活動から生まれたもの紹介

活動の中から生まれた様々なモノがあります。そのストーリーや作る側の想いをご紹介します。興味が湧いたらぜひ実物を見に出かけてみてください！

教科に分けて掲載！
イラストも多く、
フルカラーで
わかりやすい

みんなでつくった「たかたの教科書」

陸前高田まちづくり協働センターは、2021年から住民と一緒に「たかたの教科書プロジェクト」に取り組み、企画づくりから取材、執筆、デザイン、編集まで約2年半をかけて「みんなでつくったたかたの教科書」として2023年に発行しました。

「教科書」と銘打った通り、冒頭で陸前高田市の概要を紹介した後は、「国語」「社会」「理科」「家庭科」の科目に分かれており、更に「探求」や「みちのく潮風トレイル」も含めた構成です。プロジェクトに参加したメンバーも紹介されており、イラストを担当した市内の高校生は、絵を描くことが好きというきっかけから参加してくれました。

年代も幅広く個性溢れるメンバーの関心の多様さがそのまま反映され、専門的な内容からご家庭のレシピまで、バラエティに富んだ内容が魅力となっています。

冊子は陸前高田まちづくり協働センターで手に取って見ることができます。今後の増刷と配布のために寄付を受け付けています！以下の連絡先までお問合せください。

みんなでつくったたかたの教科書発行者
NPO法人
陸前高田まちづくり協働センター
TEL 0192-47-4776

教科書発行までの歩みの詳細や寄付についてはこちら→
陸前高田まちづくり協働センターHP

NPO活動交流センターからのお知らせ

NPO運営基盤強化セミナー

県内NPOの抱える課題やニーズに合わせて、組織の運営基盤強化につなげるためのセミナー（全6回）を8月から開催しています。11月以降は、今年度の第4～6回として「寄附募集」「マーケティング」「登記申請手続」をテーマに開催する予定です。各回の詳細が決まり次第、NPO活動交流センターのホームページ等でご案内します。ぜひご参加ください。

「NPO活動交流センターからのお知らせ」HP

編集後記

2024年度第2号いかがでしたか？特集ページでご紹介した陸前高田まちづくり協働センターさんの「地域には様々な知識・スキル・経験を持つ方々がたくさんいる」という言葉がとても心に残っています。どの世代にとってもワクワクする気持ちと笑顔が溢れて、さらに、色々なことにチャレンジできる機会や環境がある、そんな地域を作っていけると良いなと感じました。

さて、これから冬本番！いつも以上に車移動への注意が必要な時期ですが、今年は地域の行事やNPOのイベントも増えているので、冬ならではの取組に出会えることを期待して情報収集に励みたいと思います。

（N.S）